

「話したい！」気持ちを受け止めた上で ポイントを確認しよう。

インクルーシブ教育研究者・博士（障害科学）野口晃菜



今回のでこりん！のテーマは「話が伝わる発明品」です。

興奮している様子のでこりんが、ぼこすけに一生懸命何かを伝えていますが、何を伝えたいのか、ぼこすけにはよくわかりません。でこりんのように、一生懸命話すけれど、相手に伝えたいことがなかなか伝わらない子どもがいます。伝えても伝えても、伝わらないからあきらめてしまう子どももいます。

相手に何かをわかりやすく伝える、というのはとても難しいことです。自分の頭の中にあることを言語化する必要があります。そのためには語彙をたくさん知っておく必要があります。さらに、相手にとってわかりやすい順序で話したり、相手が知らないことは補足を加えたりする必要もあります。それを**なんとなく学んでいくことができる子どももいれば、でこりんのように、相手にとってわかりやすい話し方を学ぶ機会が必要な子どももいます。**

でこりんは、相手に伝わりやすい話し方を教えてくれる「ハナシカ」を発明します。「ハナシカ」はいくつかポイントを教えてくれます。

まず一つ目は、「**だれが」「どこで」「どうした」**のルールに当てはめて話すことです。でこりんの話は主語が抜けていたり、いろんな場所での出来事をごちゃ混ぜに話してしまったりしています。もし「だれ」や「どこ」などが混乱している場合は分類をする練習からはじめてみるのをお勧めします。例えば、**お店、家、友達、学校、家族、などのカードを用意し、「だれ」と「どこ」に分類するゲームから始める**のが良いでしょう。もし自分の頭の中にある出来事を言葉にすることが難しい場合は、**いくつかの語彙の選択肢を選ぶ**ことから始めるのもよいです。「だれ」や「どこ」にあてはめてお話することができるようになったら、次は「いつ」や「なぜ」、「どのように」を付け加えたりするのもおすすめです。さらにステップアップをする場合には、その時の自分の気持ちをつけたしたりするのも効果的です。

「ハナシカ」が教えてくれた次のポイントは「**順序だてて話す**」です。でこりんは話す順番もバラバラだったため、出来事があった順番通りに話すとともにわかりやすくなりました。関連して、「ハナシカ」は「それから」や「そのあと」の「**つなぐ言葉**」も教えてくれました。どの接続詞を使うか迷ったら、まずはこのように1つやふたつの接続詞を使うところからはじめてみましょう。その上で、次のステップとして、「まず」「そして」「つぎに」「また」などの別の接続詞にステップアップしていけるとよいでしょう。

これらのポイントは、わかっているのに、でこりんのように「話したい！」という気持ちが強い時に忘れてしまうこともあります。落ち着いている時にこれらのルールに当てはめて話す練習をすると共に、**いつでも参照できるようなヒントカードをつくっておくと、いざ「話したい！」という気持ちが強くでている時にさっと取り出して使うことができます。**なによりも大切なのは、「**話したい！」という気持ちをなくさないように、大切にすること**です。もし言っていることがわからなくても、「はなしてくれてありがとう」とその気持ちを受け止めた上で、上記のポイントをご本人と確認してみてください。